

組織目標評価報告書（令和5年度）

部局名： 中性子医療研究センター

部局長名： 成瀬 恵治

目 標		目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域		教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<ul style="list-style-type: none"> 専任及び兼務教員が関係する大学院コース(保健学研究科)の教育を担う。 学内共同研究先と協力して、修士課程大学院生、博士課程大学院生、留学生に対しての研究指導を中心とした積極的な教育を行い、BNCT研究者の輩出、論文作成を行う。 IAEA協働センター事業によるBNCT教育プログラムワークショップ開催を行い、世界各国からの優秀な人材に対するBNCT教育プログラムを遂行する。 	5-1	保健学科担当教員と共に 大学院保健学科研究科博士課程前期課程の「中性子医療コース」を実施した。BNCT(ホウ素中性子捕捉療法)に関する座学と実習により、履修者へ基礎から最新知識に至るまでの教育を実施した(2023年8月-9月)。
	8-1	修士課程大学院生、博士課程大学院生、海外からの短期・長期留学生に対して、積極的な指導による教育を実施した。全学センターとして、引き続き、学部を越えて研究に関する取り組みを積極的に行う。
	1-2	IAEA協働センター事業であるTraining Workshop on Advances In Boron Neutron Capture Therapyを 2023年7月3日～7日に岡山大学Junko Fukutake Hallと関西BNCT共同医療センターを会場として開催した。世界15か国より27人が参加し、BNCTに関する最先端の基礎研究から臨床応用までの紹介、また、ハンズオントレーニングや治療見学を行った。
②研究領域		研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<ul style="list-style-type: none"> 国外研究者とのBNCT関連の国際共同研究へ向けた取り組み強化を行い、世界規模での有用な新規シーズの発掘を行う。 学内BNCT共同研究体制を構築し、新たな協力体制やBNCTプロジェクトを立ち上げ、岡山大学内での認知度を高める。 BNCT関連の基礎研究より橋渡し研究に至るまで全分野での研究を進め、産学共創活動の推進、共同研究基盤の拡大を行う。 	8-1	AMED橋渡し事業を利用しての新規BNCTプロジェクト事業をスタートさせ、学内横断的な研究課題を作成し、新規シーズ発掘に取り組みに成功した。(2023, 2024年度橋渡し研究シーズA採択)
	8-2	学内の各学部(医学部、薬学部、理学部、環境理工学部、工学部)と横断的にBNCT研究に取り組み、BNCTの学内認知度を上げ、新たな協力体制による研究拡大、研究費獲得に成功した。
	10-1	企業との共同研究事業(ステラファーマ、3DM社)を継続し、臨床化へ向けての橋渡し研究の推進を進め、岡山大学病院新医療研究開発センターを利用した産学連携、事業発展を積極的に進めた。
③社会貢献(診療を含む)領域		社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<ul style="list-style-type: none"> 中性子医療研究センター主催のシンポジウムを開催し、センターの業績の報告や各分野の講演を通じて、対外的な研究力発進を務める。 IAEA協働センター事業の継続発展、特に全世界の研究者・医療者を岡山に招聘し、BNCT教育プログラムを推進し、世界のBNCT専門家育成を行う。 岡山県里庄町の仁科会館と協働で、仁科芳雄先生の業績を世界に広める事業計画を行い、地域貢献を通じてサイクロトロン等の業績発信を行う 日本国内でのBNCTガイドライン策定に寄与し、IAEAに国際基準策定を働きかける。 	8-2	2023年12月14日、センター主催となる第7回岡山大学中性子医療研究センターシンポジウムを開催した。「中性子医療研究の新しいアプローチ」をメインテーマに学内の専門家に講演を頂き、シンポジウムは盛会に終了した。
	7-1	IAEAと岡山大学の共同事業であるTraining Workshop on Advances In Boron Neutron Capture Therapyを 2023年7月3日～7日を開催し、世界15か国の参加者と岡山大学中性子医療研究センターが、BNCTに関する拠点事業を成功させた。
	8-1	日本の原子物理学の父である仁科芳雄博士の業績を展示する岡山県里庄町の仁科会館と共同で、仁科博士の業績の多言語対応による国際化事業をスタートさせた。
	7-1	
④管理運営領域		管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<ul style="list-style-type: none"> おかやまメディカルイノベーションセンター(OMIC)や光・放射線情報解析部門と連携し学内施設の活用によりアカデミアの枠を超えた共同利用の推進事業を行う 基幹経費化に伴い、積極的な研究費獲得に挑戦し、人的・資金面での継続的な発展に挑戦する。 	12-2	おかやまメディカルイノベーションセンター(OMIC)や光・放射線情報解析部門と連携し学内施設の活用により、岡山大学としてのオンリーワンプロジェクトを遂行し、学内施設の利用発展を行った。
	8-2	スタッフ全員が、科研費獲得はもちろんのこと、多くの競争的資金への申請及び獲得によりBNCTを軸とした、新たな発展、資金獲得に成功した。さらに、学内外でのプロジェクト体制を構築して、AMED事業や特別電源所在県科学技術振興事業からの補助金継続に成功した。 学長の進める上海大学との国際交流協力を積極的に尽力し、2023年5月29日の協定締結に参加、更に中国上海市で2023年11月3日～4日に「第2回日中医学交流フォーラム」を共同開催した。学長指揮の下、中性子医療研究センターが中心となり日本側は岡山大学、東京大学、日本医科大学、中国側は上海大学、上海交通大学、上海海洋大学、北京大学等の約180人が参加し、アカデミアレベルの日中友好発展に繋がる交流フォーラムとなった。
⑤センター・機構等業務		センター・機構等業務における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<ul style="list-style-type: none"> 運営委員会を適宜開催し、センターにおける運営方針を決定し、評価委員会(外部評価委員)を開催して、外部の視点から評価を踏まえた組織運営に努める。 	8-1	運営委員会を2023年5月と2024年2月に開催し、センターの運営方針を決定した。 外部評価委員会を2023年8月23日に実施し、センター事業の適正な推進のための外部有識者の先生方による厳正な評価を頂き、センター内で結果を共有さらに運営委員会で今後の方針として報告した。

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5～1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。

(※該当がある場合のみ) 昨年度の指摘事項に対する取組状況

改善を要する点	該当なし
対応状況	該当なし